

小林佐兵衛（その2） 幕末明治の大阪が生んだ“慈善家フィクサー”

高木 昌之

【目的】

前年は『～司馬遼太郎の小説「俄」のモデル～ 異色の社会事業家・小林佐兵衛の足跡』として、司馬遼太郎生誕100年に際し、小説『俄^{にわか}—浪華遊侠伝』の主人公・小林佐兵衛（1830～1917）をテーマとして取り上げ、社会基盤や社会福祉制度が未整備な時代に一私人として消防や生活困窮者の救済などに取り組んだ社会事業家という表の顔に着目した。彼の行動の背景には常に「～のため」という大義が存在していたことは前年の報告で述べた通りである。

一方で、大阪を牛耳る侠客の親分として政治勢力と結び付いて数々の事件に関与していたことも事実である。

今回はその“フィクサー”としての側面を捉え、その所業を明らかにするとともに、ゆかりの場所を紹介することで、今は埋もれてしまっている「小林佐兵衛」という人間に再びスポットを当てる。

【内容】

小林佐兵衛は、“フィクサー”という面においても、勢力拡大という己の欲望ではなく、依頼されて大義に基づき行動した。正確に表現するならば、佐兵衛の大義を貫こうとする姿勢を政府側に巧みに使われたと言うべきかもしれない。作家・司馬遼太郎も、佐兵衛の生涯を描いた『俄—浪華遊侠伝』で、他人にその勢力を利用される主人公・明石屋万吉の様を、その子方である軽口屋に「大きゅうなり過ぎよった」と憐れみをもって語らせている。

佐兵衛の人生において“フィクサー”として活躍した3つの事件を取り上げ、佐兵衛の生き様を検証する。

【結果】

3つの事件は小林佐兵衛のフィクサーとしての様々な顔を見せてくれた。政府や行政も困ったときは最後は親分の顔に頼る、という構図は、当時としてはごく当たり前で、決して裏の存在ではなかったことを窺わせる。肯定するものではないが、彼らなしに時代を前に進めることはできなかったのでないかとさえ感じさせる。

昨今、コンプライアンスやハラスメント、LGBTQなどが声高に叫ばれ弱者の人権が守られる時代となったことは喜ばしい限りだが、一方で言論や行動により強い慎重さが求められ少々窮屈な時代となっている。だからこそ、前後を顧みず自らの大義のために突き進めた佐兵衛の生き様が、より痛快に感じられるのかもしれない。

遺されたものは多くないがそれらを辿り、佐兵衛の思いを実感していただきたい。

侠客・小林佐兵衛は、社会事業家としてだけでなくフィクサーとしても活躍した。政治にうまく利用された側面は否めないが、それが彼の生涯を波乱に富んだ面白みのあるものにしたのも事実である。

幕末から明治にかけ活躍した小林佐兵衛が政治とどう絡んでいたのか具体的な事例 3 つを掘り下げ、併せてそれぞれの事件を今でも偲べる場所を紹介する。詳細な位置については前年の報告に附属の地図を参照していただきたい。



小林佐兵衛 (1830~1917)
『小林佐兵衛伝』より

1. 番所の見張り役

1864年(文久3年)、幕府は諸国から浪士が大坂へ流入するのを防ぐため、各藩に命じて大阪市中を警戒させることにした。西横堀川以西は播州小野藩一柳家が担当することになったが、1万石の小藩では、家来だけで広い西大阪を監視することは不可能であった。そこで明石屋萬吉を召し抱え担当させることになった。萬吉は苗字帯刀を許され名を小林佐兵衛と改め、食禄十人扶持の足軽頭となった。

佐兵衛は尻無川の番所の見張り役を命じられ、数百人の郷人足を子分として率い警戒に当たった。子分一人に1日白米5合を与えることになったが、当然自分の小禄だけでは養えない。そこで主家に願い出て町奉行黙認のもとに公然と賭場を開き、一柳家の定紋が打たれた高張提灯を掲げ朝から博奕をさせ、その寺銭をもってこれに充当したのである。

当時、浪士の横行は甚だしく、遊女町に入り込んで軍用金確保のために金銭を強請し、応じなければ切り捨てるといった有様だった。もちろん浪士といっても横暴を働く者ばかりではなかったが、警固の役人に捕らえられれば是非もなく首を刎ねられた。

ところが佐兵衛は捕縛しても滅多切りにするようなことはなく、天下のために奔走する者と見れば、中国九州方面に逃がしてやった。桂小五郎(後の木戸孝允)などもその一人で、これが後に長州人との楔となり、明治維新後に佐兵衛自身の命を救うことになる。

(尻無川番所の現状)

尻無川番所は今の端建蔵橋南詰付近にあったが面影はなく、近くに「大坂船手会所跡」の碑が残るのみである。



大坂船手会所跡碑 (西区)

2. 殉難志士の改葬

佐兵衛は、1887年(明治20年)、大阪府知事らの依頼を受け、長州藩士の遺骸を千日前の料理店「南鏡園」の庭から掘り出し阿倍野に改葬した。

ことの顛末は以下のとおりである。

1864年（元治元年）に京都で起こった「禁門の変（蛤御門の変）」で尊攘派の長州軍は会津・薩摩藩を中心とする公武合体派軍に敗れた。その際、宍戸弥五郎をはじめとする48人の長州藩志士は三十石船にて伏見から脱出したものの大阪への上陸は果たせず従者を含めた60数人全員が船上で自害。そこへ幕府と会津の兵が押し寄せ首を刎ね、刑場であった千日前に首塚を造り埋めた。

明治に入ると千日前の刑場はなくなり繁華街へと変貌し、首塚の場所には「南鏡園」という料理店ができた。「南鏡園」の主人が首塚を整備して長州の勤王家を祀っていることを宣伝したところ、その墳墓見たさに客が集まり店は繁昌した。評判は長州毛利家にも伝わり遺骸を引き渡すよう申し入れたが、主人には大切に供養をしていることなどを理由に断られた。大阪府知事渡辺昇や造幣局長遠藤謹介も同じことを要請したが応じてくれない。そこでいよいよ小林佐兵衛に頼むこととなった。

佐兵衛が店を訪れると主人の態度は一転し、佐兵衛が話し出す前に即座に了承した。この報告を聞いた知事や局長は佐兵衛の顔が利くのに驚き、引き続き遺骸の掘り出しも托すことにした。佐兵衛は自ら人夫を率いて掘り起こし、清水で洗い箱に納め、「殉難志士の遺骨」と書かれた旗を立てて大阪市中を練り歩き、阿倍野に改葬した。後に毛利家により大江神社の傍らに埋葬し直し碑も建てられた。毛利家は感謝の意を込め金二千元を贈ろうとしたが佐兵衛はこれを受け取らなかった。だが実際には佐兵衛は二千元以上も使ったことにあっていた。

この話には続きがあり、「南鏡園」の主人は実はかつて無実の罪で囚われていた兵庫県警探索係（刑事巡査のことを当時はそう呼んでいた）の高橋で、明治初年に佐兵衛が兵庫県警の警部の依頼を受け救い出した人物であった。佐兵衛自身は直接高橋に会うことなく話を付けたので面識はなかったが、高橋はその恩を忘れていなかったのである。

（南鏡園、大江神社、阿倍野墓地の現状）

話の起点となった千日前南鏡園の遺構は残っていないが1935年（昭和10年）発行の『上方第五十六号』に「千日前がまだ南海通り辺から南へ道路のなかった時分、その突当りに南鏡園といふ可なり



死節群士之墓
（阿倍野区・大阪市設南霊園）



旧山口藩殉難諸士招魂之碑
（天王寺区・大江神社）



千日前南鏡園推定図
『大阪実測図』（1886）より

大きな料亭があった。」と記述されている。推察すると上図の通りとなる。一方、大江神社（大江護国神社）や大阪市設南霊園（阿倍野墓地）には、当時のものがそのまま残されている。但し現在、大江護国神社内には入場できない。

3. 大井憲太郎に対する選挙妨害

小林佐兵衛は選挙戦にも多大な影響を与えた。

1892年（明治25年）の第2回衆議院議員総選挙は、内務大臣の品川弥二郎が強力な選挙干渉を行ったことで知られる。

北河内の大阪府第6区も例外ではなく、民党の大井憲太郎が政府の推す俣野景孝を抑え選挙戦を優勢に進めていたため、小林佐兵衛に選挙妨害を依頼した。1885年（明治18年）の大阪事件の際、朝鮮の独立を支援しようとした大井を謀反人と吹き込み、佐兵衛の義侠心を煽って引き受けさせたのである。

ちなみに当時の大阪府第6区は1人区で、茨田郡、交野郡、讃良郡、河内郡、若江郡、高安郡を範囲とし、1889年（明治22年）の人口は133,325人であった。

佐兵衛は、自らを慕う侠客を網羅して1890年（明治23年）に設立した「公平会」の会員を招集して各演説場に押しかけさせ選挙運動を妨害した。これに対し民党側も撃剣の道場を大阪で開いていた半田弥太郎に「文武会」を組織させ対抗した。やがて八尾で両勢力の大衝突が起こったが、さすがの侠客も剣客には敵わず劣勢となった。

そこで佐兵衛は子分の難波の福を送り込み、続いて京都の会津小鉄一家を使って半田勢を敗北させた。双方の負傷者が多かったことなどから最後は佐兵衛自らも八尾に乗り込み、雇われていた文武会の剣士たちに金を渡し半田勢を事実上の解散に至らせたのである。

事態は沈静化し、「公平会」が大井の反対勢力であることを知った選挙人たちは俣野に投票したため大井は落選した。

（演説場の現状）

演説場については、選挙という極めて短期間のイベントが舞台となっているため、当時の遺構は不明である。

◆参考文献等

船橋半三郎『小林佐兵衛伝』（1917）小林佐兵衛米寿祝賀会 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1915554>（参照 2024-03-13）、平野義太郎『馬城大井憲太郎伝』（1938）大井馬城伝編纂部 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1222618>（参照 2024-03-13）、上方郷土研究会編『上方第五十六号』（1935）創元社、地理局図籍課『大阪実測図』（1886）、司馬遼太郎『俄一浪華遊侠伝』（1972）講談社、佐々木克編『それぞれの明治維新』（2000）吉川弘文館、八尾市立歴史民俗資料館編『八尾市立歴史民俗資料館研究紀要第16号』（2005）八尾市教育委員会、富田林市史編集委員会編『富田林市史第三巻』（2004）富田林市総務部総務課、末木孝典「明治期小選挙区制における選挙区割り」と選挙区人口」（2014）



大井憲太郎（1843～1922）

『馬城大井憲太郎伝』より

2024年3月23日

小林佐兵衛（その2）
幕末明治の大阪が生んだ
“慈善家フィクサー”

大阪公立大学 大阪検定客員研究員
高木 昌之

1

1. 小林佐兵衛とは

(1) 前年のおさらい

プロフィール

生年：1830年（文久13年）

没年：1917年（大正6年）

大阪が生んだ侠客

司馬遼太郎「俄 浪華遊侠伝」の
主人公のモデル

消防活動

1873年（明治6年）

「北の大組頭取」に就任し消防活動に参画

1909年（明治42年）

北の大火（天満焼け）から大阪天満宮を守る



米寿を迎えた小林佐兵衛
出典：国立国会図書館
「小林佐兵衛伝」

そして人生で最も力を入れたのが…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

2

1. 小林佐兵衛とは

(1) 前年のおさらい

社会事業家

1882年（明治15年）頃

「小林授産場」を創立
浮浪者や生活困窮者に
教育・職業訓練を行い、
社会復帰・自立を支援した。

1912年（大正元年）

「小林授産場」を売却
米相場で得た巨万の富の
全てを投げ運営したが
維持できなかった。



小林授産場の一部と収容者
出典：国立国会図書館
「小林佐兵衛伝」

これだけだとただの慈善家だがやはり…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

3

1. 小林佐兵衛とは

(2) フィクサーとしての小林佐兵衛

小林佐兵衛は、“フィクサー”という面においても、勢力拡大という己の欲望ではなく、依頼されて大義に基づき行動した。

佐兵衛の人生において

“フィクサー”として活躍した3つの事件を取り上げる。

※主な典拠は「小林佐兵衛伝」等の伝記

- ・ 番所の見張り役
- ・ 殉難志士の改葬
- ・ 大井憲太郎に対する選挙妨害

まずは「番所の見張り役」

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

4

2. 番所の見張り役

(1) 播州小野藩の足軽頭

1863年（文久3年）5月

播州小野藩は幕府から安治川船手の警備を命じられる



播州小野藩：1万石の小藩

第11代藩主・一柳末徳は14歳少年藩主
(幕命を受けた10代末彦が病気で隠居)

一柳末徳（ひとつやなぎ すえのり）[1850-1922]
綾部藩第9代藩主・九鬼隆都（たかひろ）の五男。
1863年6月に末彦（すえよし）[1843-1881]より
家督を譲られ小野藩最後の藩主となる。
次男・広岡恵三は広岡浅子の女婿で、
加島銀行頭取、大同生命社長、大阪電気軌道社長。
三女・一柳満喜子はウィリアム・メレル・ヴォーリス夫人。

小野藩の安治川での活動は1年で終わり…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

5

2. 番所の見張り役

(1) 播州小野藩の足軽頭

1864年（文久3年）

幕府は諸国から浪士が大阪へ流入するのを防ぐため、
各藩に命じ大阪市中の警戒にあたらせる



1万石の小藩では家来だけで
広い西大阪を監視することは不可能

既に勢力を持っていた

明石屋萬吉を召し抱え担当させることに



萬吉は苗字帯刀を許され名を小林佐兵衛と改め、
食禄十人扶持の足軽頭となった。

但し警備には多数の郷人足が必要

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

6

2. 番所の見張り役

(2) 郷人足の給料

尻無川の番所の見張り役を命じられ、
数百人の郷人足の子分として率い警戒に当たる

↓
子分一人に1日白米5合を
与えることになったが、
当然自分の小禄だけでは
養えない

主家に願い出て町奉行黙認のもと
に公然と賭場を開き、一柳家の定
紋が打たれた高張提灯を掲げ朝か
ら博奕をさせ、その寺銭をもって
これに充当。



大坂船手会所跡碑（西区）

資金だけでなく市中警備でも独自の対応

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

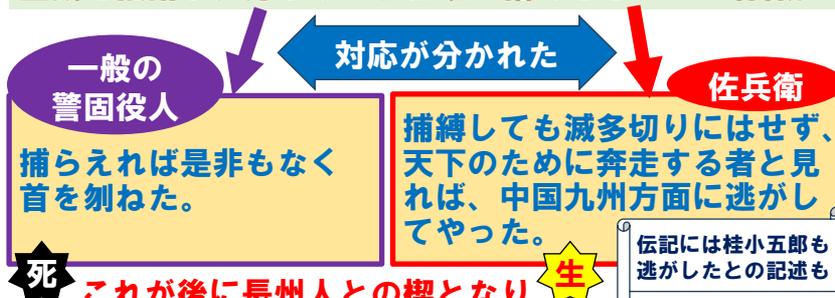
7

2. 番所の見張り役

(3) 浪士の捕縛と助命

浪士

横行甚だしく、遊女町に入り込んで軍用金確保のために
金銭を強請し、応じなければ切り捨てるといった有様。



これが後に長州人との楔となり、
明治維新後に佐兵衛自身の命を救うことになる。

次は「殉難志士の改葬」

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

8

3. 殉難志士の改葬

(1) 千日前の料理店の首塚

1864年（元治元年）

京都で「禁門の変（蛤御門の変）」勃発

尊攘派の長州軍は会津・薩摩藩を中心とする公武合体派軍に敗れた。



48人の長州藩志士は三十石船にて伏見から脱出したものの大阪への上陸は果たせず従者を含めた60数人全員が船上で自害。

そこへ幕府と会津の兵が押し寄せ首を刎ね、刑場であった千日前に首塚を造り埋めた。

やがて時代は移ろい…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

9

3. 殉難志士の改葬

(1) 千日前の料理店の首塚

明治に入ると千日前の刑場はなくなり繁華街へと変貌し、首塚の場所は「南鏡園」という料理店に。



「南鏡園」の主人が首塚を整備して長州の勤王家を祀っていることを宣伝したところ、その墳墓見たさに客が集まり店は繁昌した。



内務省発行 大阪実測図
明治20年（1887年）

評判は長州毛利家にも伝わり…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

10

3. 殉難志士の改葬

(1) 千日前の料理店の首塚

長州毛利家

遺骸を引き渡すよう申し入れたが「南鏡園」の主人には大切に供養をしていることなどを理由に断られた。

大阪府知事渡辺昇(のぼり)・造幣局長遠藤謹助
同じことを要請したがやはり「南鏡園」の主人は応じてくれない。



いよいよ小林佐兵衛に頼むことに

小林佐兵衛が訪ねると

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

11

3. 殉難志士の改葬

(2) 遺骨の掘り出しと埋葬

佐兵衛が店を訪れると主人の態度は一転し、佐兵衛が話し出す前に即座に了承した。



この報告を聞いた知事や局長は佐兵衛の顔が利くのに驚き、引き続き遺骸の掘り出しも托すことにした。

毛利元親公より贈られた銀杯
出典：国立国会図書館「小林佐兵衛伝」



佐兵衛は自ら人夫を率いて掘り起こし、清水で洗い箱に納め、「殉難志士之遺骨」と書かれた旗を立てて大阪市中を練り歩き、阿倍野に改葬した。後に毛利家により大江神社の傍らに埋葬し直し碑も建てられた。

主人が佐兵衛に応じた理由は…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

12

3. 殉難志士の改葬

(2) 遺骨の掘り出しと埋葬

「南鏡園」の主人は実はかつて無実の罪で囚われていた兵庫県警探索係（刑事巡査のことを当時はそう呼んでいた）の高橋

明治初年に佐兵衛が兵庫県警の警部の依頼を受け救い出した人物

佐兵衛自身は直接高橋に会うことなく話を付けたので面識はなかったが、高橋はその恩を忘れていなかった。

よく出来た話だが残念ながら伝記以外の裏付けはない

墓や碑は今も残る

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

13

3. 殉難志士の改葬

(3) 現在に残る遺跡

話の起点となった千日前の南鏡園に関しては一切不明。でも遺っているものもある。



死節群士之墓
(阿倍野区・
大阪市設南霊園)

旧山口藩殉難諸士
招魂之碑
(天王寺区・
大江神社)



次は「大井憲太郎に対する選挙妨害」

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

14

3. 大井憲太郎に対する選挙妨害

(1) 政府の選挙干渉

1892年（明治25年）第2回衆議院議員総選挙
内務大臣の品川弥二郎が強力な選挙干渉を行う



政府側は小林佐兵衛のもとを訪ね…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

15

3. 大井憲太郎に対する選挙妨害

(2) 侠客vs刺客

政府側は小林佐兵衛に選挙妨害を依頼
1885年（明治18年）の大阪事件の際、朝鮮の独立を支援しようとした大井を謀反人と吹き込み、佐兵衛の義侠心を煽って引き受けさせた。



ついに佐兵衛が八尾へ

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

16

3. 大井憲太郎に対する選挙妨害

(2) 侠客vs剣客

佐兵衛は子分の難波の福を送り込み、続いて京都の会津小鉄一家を使って半田勢を敗北させた。

双方の負傷者が多かったことなどから最後は**佐兵衛自らも八尾に乗り込み、雇われていた文武会の剣士たちに金を渡し半田勢を事実上の解散に至らせた。**



事態は沈静化し、「公平会」が大井の反対勢力であることを知った選挙人たちは侯野に投票したため**大井は落選。**

侯野景孝	1,346票
大井憲太郎	1,161票

まさに佐兵衛の面目躍如といったところだが…

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

17

4. 終わりに

「フィクサー」としてもブレずに大義に基づき行動した**小林佐兵衛**だが、むしろ佐兵衛の大義を貫こうとする姿勢を政治家に巧みに利用されたことは否めない。

作家・**司馬遼太郎**も『**俄一浪華遊侠伝**』で、他人にその勢力を利用される主人公・明石屋万吉の様を、その子方である軽口屋に「**大きゅうなり過ぎよった**」と憐れみをもって語らせている。

でも**司馬遼太郎**もその生き様に魅力を感じたからこそ小説の主人公に**抜擢**したのだと思う。

何かとちょっと窮屈な今だからこそ**痛快に生きた小林佐兵衛**を振り返ってみたい

小林佐兵衛(その2) 大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

18

2024年3月23日

小林佐兵衛（その2）
幕末明治の大阪が生んだ
“慈善家フィクサー”

ご清聴ありがとうございました

大阪公立大学 大阪検定客員研究員
高木 昌之

19

最後の最後に

年	大阪検定客員研究員として報告したテーマ
2015	菅原道真公がつなぐ、観光事業における大阪・神戸の協働の可能性
2016	「平成版」大阪天神めぐり」選定
2017	水都大阪“名水”めぐり
2018	トロリーバスが見た大阪 ～2020 年全廃 50 年～
2019	大阪に遺る博覧会の痕跡から見えるもの ～忘れ去られた小規模博覧会「国防博」～
2020	実は日本マラソン発祥の地 大阪～1909年マラソン大競走～
2021	『万葉集』を注釈した僧・契沖の足跡
2022	大大阪記念博覧会 ～「大阪・関西万博」百年前の博覧会～
2023	異色の社会事業家・小林佐兵衛の足跡
2024	小林佐兵衛（その2） 幕末明治の大阪が生んだ“慈善家フィクサー”



10年間にわたりありがとうございました

大阪公立大学 大阪検定客員研究員 高木 昌之

20